

令和5～7年度

免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

藤田医科大学総合アレルギーセンターにおける 治療と仕事の両立支援の取り組みと課題



矢上晶子

藤田医科大学 総合アレルギーセンター(愛知県アレルギー疾患医療拠点病院)

藤田医科大学 ばんだね病院 総合アレルギー科

(日本皮膚科学会皮膚科専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医)

2025年9月3日

20

○個々の患者さんの両立支援体制構築

**アレルギー疾患の治療と
就学・就労の両立をサポートします**

疾患が原因で就学・就労に支障がでて悩まされていませんか？ そういった方たちが学校や職場で適切な措置を受けられるよう、専門医と再立支援コーディネーターがチームとなって個々の症状や状況に適した治療・生活・勤務状況などを考慮した就学・就労環境を提案し、患者さんの治療と仕事の両立をサポートしていきます。



治療と就学・就労の両立にお悩みの方は、
 ばんだね病院の各診療科を受診した際に
 ご相談ください

当センターへ
 ばんだね病院へ
 外来医館担当表

受診方法は当センターHPより
お願いいたします。



藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER

〒454-8509 愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号 藤田医科大学ばんだね病院内 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

アレルギー疾患の治療と就労の両立に関する勉強会

本学の産学連携推進センターと連携し、アレルギーが就労に及ぼす影響や、就労の際にその企業で発生し得るアレルギーについてのアドバイスなどを、企業向けに講演しました。アレルギーは、がんや脳梗塞などのように死に直結する疾患ではありませんが、直結しないからこそ周りの人には伝えづらい疾患です。

【講 師】

森 雄 司

アレルギー専門医／両立支援コーディネーター

安藤あすか

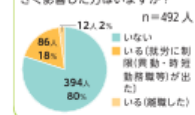
医療ソーシャルワーカー／両立支援コーディネーター

- ホーユー株式会社
- 株式会社アイシン
- 日本特殊陶業株式会社

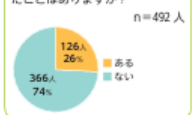
- 株式会社池田模範堂
- スギホールディングス株式会社

- 企業が知っておくべきアレルギーの実態、仕事へのアレルギー負担
- 企業はアレルギーにどのように対応、対策しておくべきか
- その企業で起こり得るアレルギー
- イキイキワクワク働ける職場環境の整備

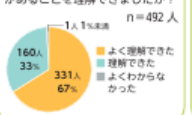
Q1. (ご自身もしくは周りの方で) アレルギー疾患が就労に大きく影響した方はいますか？



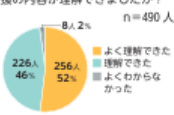
Q2. 社内でアレルギー疾患に関わる相談をしたり受けたりしたことはありますか？



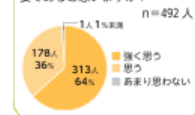
Q3. 本日の勉強会で、アレルギー疾患が就労に影響する可能性があることを理解できましたか？



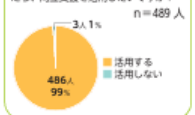
Q4. 本日の勉強会で、アレルギー疾患の治療と就労の両立支援の内容が理解できましたか？



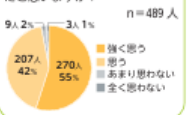
Q5. アレルギー疾患でも、治療と就学・就労の両立支援は必要であると思いますか？



Q6. ご自身や周りでアレルギー疾患の治療と就学・就労で困っている人がいたら、国立支援を活用したいですか？



Q7. アレルギー疾患では両立支援指導料を保険適用にすべきだと思いますか？



○アレルギー疾患と両立支援事業の啓発 (地元企業での勉強会開催)

藤田医科大学よりプレスリリース

<https://www.fujita-hu.ac.jp/news/j93sdv000000nnvx.html>

医療・教育ルート

2023年11月6日

※医療・教育ルートへの配信をお願いします。
※本紙を含めて2枚お送りします。



総合アレルギーセンターで実現する アレルギー疾患患者の治療と就学・就労の 特色ある両立支援

総合アレルギーセンターが設置されている“ばんだね病院”（所在地：愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号 病院長：堀口明彦）は、厚生労働省の“令和5年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業”の実施法人に採択され、2023年7月、アレルギー疾患患者さんが適切な治療を受けながら学業・仕事を続けるための“両立支援チーム”を立ち上げ、9月より実運用を開始しました。

両立支援では、就労現場の理解を深めることが重要となります。11月13日、ホーユー株式会社の従業員を対象に、“アレルギー疾患と就労の両立”についての勉強会を開催します。実効性の高い両立支援の実現に関する活動の一環として、ぜひご取材ください。

■藤田医科大学総合アレルギーセンターの特色を活かした両立支援

総合アレルギーセンターは、総合アレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、消化器内科などの医師に加え、高度な専門知識と指導技術をもった医療スタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士など）が、それぞれの専門性を交え、精力的にアレルギー疾患の臨床、研究、教育等を行っています。

全年齢、全方位のアレルギー疾患に対応できる利点を活かし、職業性アレルギーの対応として企業での勉強会を開催するなど、より実効性の高い両立支援の実現を目指しています。



《両立支援チーム》

アレルギー診療の経験豊富な医師・医療スタッフ、両立支援コーディネーターで構成。診療情報、生活状況、学校・職場環境などの情報を総合的に検討し、診療と就学・就労が両立・継続できる最適な支援内容を決定します。

両立支援コーディネーターは、相談者と診療とは別枠で面談し、策定された支援プランに基づき、また相談者の立場・目標を大切に満足度の高いサポートを行っています。



治療と仕事の両立支援



相談窓口

アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立でお悩みのご相談にお答えいたします。

- アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立についての質問に無料でお答えいたします。
- アレルギー疾患全般に関する心配事や悩み事についてはこちらのページへ
- 患者さんやそのご家族だけでなく、医療従事者、教育関係者、企業の皆さまなどアレルギーに関心している様々な業種の方からのご相談にも対応いたします。どうぞお気軽にご相談ください。

※相談窓口は、一般の方へのアレルギー疾患に関する適切な情報提供およびアレルギー診療に関わる医療従事者や教育関係者等への人材育成のための情報提供を目的としております。

※相談窓口を利用して診療を行うことはできません。

※回答によって症状が改善されなかったとしても責任を負うものではありません。

入力フォームは以下のアイコンをクリックしてください。

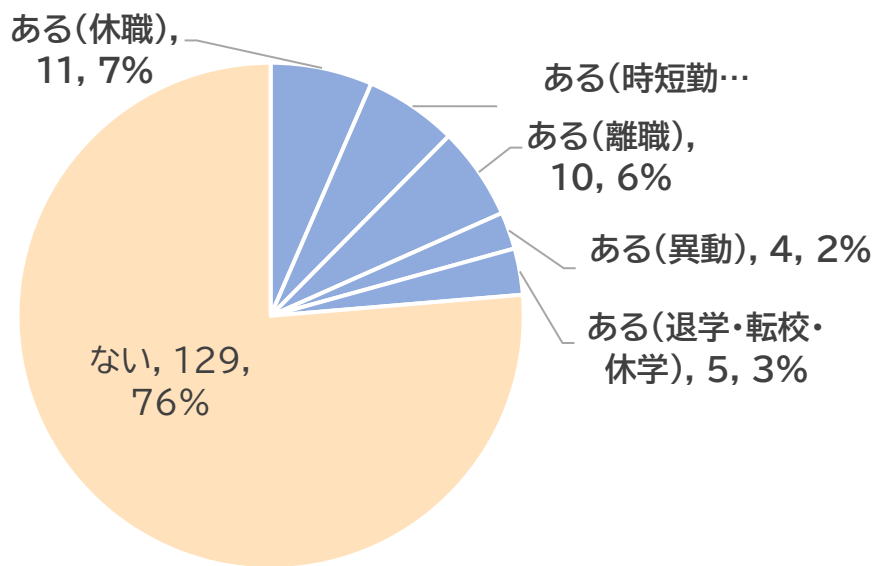
治療と就学・就労の両立の
ご相談

相談例

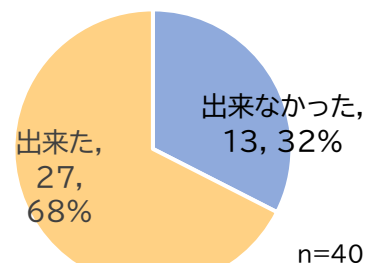
- ハウスダストアレルギーの検査で最も高いレベルが出た。
- オフィスで働くと、アトピー性結膜炎・皮膚炎・鼻炎の症状がよく出る。
- 屋外での業務では、汗や花粉によりアトピー性皮膚炎が悪化する。
- そのため、どのような働き方を選ぶべきか悩んでいる。

アレルギー疾患が就学・就労に及ぼす影響に関する院内実態調査

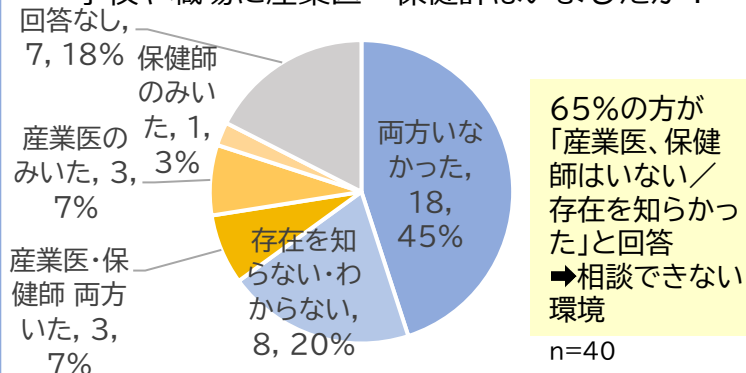
⑦-1 アレルギー疾患の為に就労・就学に大きく困難をきたしたことはありますか？困難をきたした際に相談できましたか？



その際に学校や職場に相談できましたか。



学校や職場に産業医・保健師はいましたか？

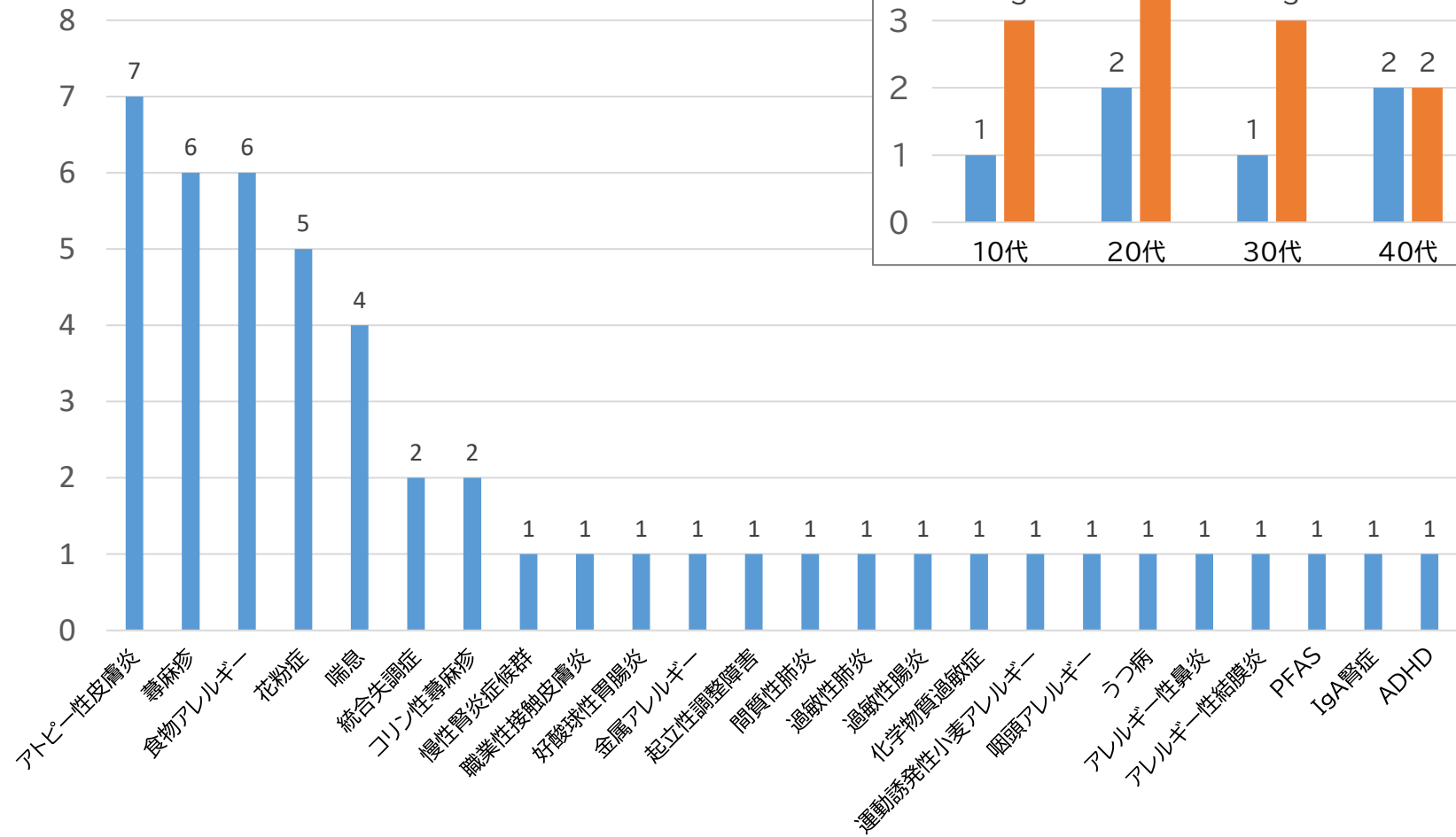


65%の方が「産業医、保健師はいない／存在を知らなかった」と回答
➡相談できない環境

25%(4人に1人)の方が
「アレルギー疾患の為に就労・就学に大きく困難をきたしたことがある」と回答

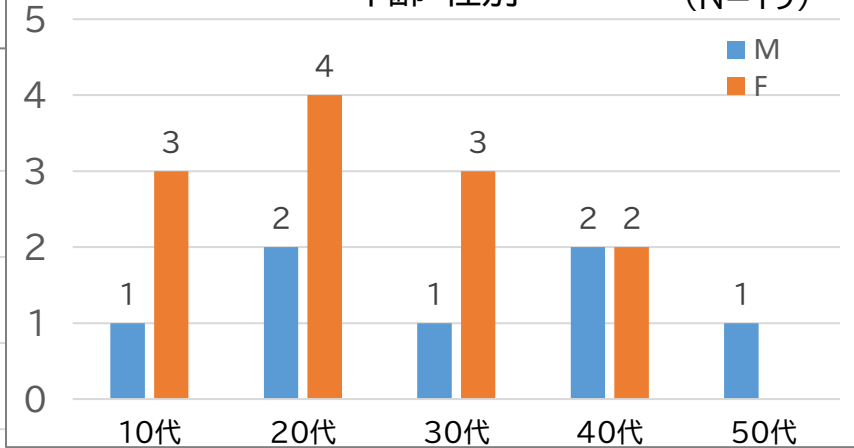
両立支援事例報告(取組症例数)

疾患名(重複あり)



年齢・性別

(N=19)



【様々なアレルギー疾患の症状と治療が仕事の継続に影響した事例】

20歳代 女性

週4日パートタイムで就業しているが、様々なアレルギー疾患があるため、呼吸器症状等を発症して断続的に入院が必要となるなど、仕事を休みがちである。

また、食物によるアナフィラキシーでは、突然の発症で救急外来を受診して入院することになる、経口負荷試験の実施翌日は体調不良になることが多いなど、就労と治療のバランスが取れない状況にある。

【就業時に困っていること】

- ・ 掃除など特定の作業で発作が出やすい
- ・ 終業時間近くになると症状が出ることがある(咳嗽が主症状)
- ・ 食物経口負荷試験を受けており、翌日に体調を崩して仕事に行けなくなる
- ・ 治療費用が高額

【本人の希望】

- ・ 体調を整えて継続して就業できるようになりたい
- ・ 正職員に戻りたい
- ・ 今の職場で、現在の部署で働きたい

【アレルギー歴】

食物アレルギー
気管支喘息
花粉－食物アレルギー症候群
咽頭アレルギー
花粉症
アトピー性皮膚炎
蕁麻疹

【受診科】

小児科
総合アレルギー科
呼吸器内科
耳鼻咽喉科
消化器内科
など複数の診療科を受診

【両立支援内容】

- ◆ アレルギー症状のコントロールと仕事の継続には職場の理解が必須であるが、当該患者は、体調と就労のバランスを取ることで、職場に自分の状況を適切に伝えることが苦手であったため、両立支援が不可欠と判断した。
- ◆ 両立支援コーディネーターより、発症の状況、検査結果、主治医の見解を踏まえ、「職場に理解してもらうための具体的な伝え方」を提示した結果、自身の状況を職場に適切に説明すること、さらに体調に合わせた勤務スケジュールも相談できたことで、実際に勤務調整へと繋がり、アレルギー治療と就業を両立した勤務ができた。
- ◆ また、食物経口負荷試験については、小児科と総合アレルギー科の合同診療とし、患者負担を軽減できるようスケジュールを調整し、就労との両立を支援した。
- ◆ 本人が安心して働き続けられる環境が整い、両立支援の必要性和有効性が改めて示された。

【アレルギー疾患と複合的な理由により就労が困難であった事例】

仕事が続かない…… ～Hさんの場合（20歳代）～

幼少期よりアトピー性皮膚炎、花粉症、過敏性胃腸炎などの症状があった。統合失調症の診断も受けており、パニック発作を起こすこともある。日常生活や就労の継続が困難な状況にある。

本人の希望

症状をコントロールできるようになり、働けるようになりたい。

診療内容

慢性化したアトピー性皮膚炎については Janus kinase（JAK）阻害薬で治療し、症状は大きく改善した。その後、症状がコントロールできるようになり、良好な状態を保てるようになった。

支援内容・結果

本人は、屋外作業や立ち仕事など体に負担の大きい職種を希望していたが、症状のコントロールが難しくなることが懸念された。疲労やストレスが症状に悪影響を与えるため、体質や性格に合った職種を選ぶことが重要であるとアドバイスした。その後、就労継続支援 B 型事業所※に通所し、収入が得られるようになった。

※就労継続支援 B 型事業所：障害や難病のある人が就労や生産活動の機会を得られる障害福祉サービス事業

就労継続支援B型：雇用契約を結ばず、比較的軽作業を通じて就労訓練を行う。工賃は成果に応じて支払われる。



就労継続支援A型：事業所と雇用契約を結び、最低賃金が保障される。勤務形態は一般就労に近く、職場適応力を高める段階。

または

就労移行支援：一定期間（原則2年）、企業での一般就労を目指して、職業訓練・職場実習・就職活動支援を受ける。



一般就労（企業就労）：障害者雇用枠や一般枠で就職。就労定着支援やジョブコーチ支援などを受けながら継続。

【両立支援内容】

- ◆ 患者は、自身の状態に合った就労レベルを理解し、まずは就労を開始することで社会への第一歩を踏み出すことができた。現在は、さらなるステップアップを目指している。
- ◆ こうした歩みは、両立支援コーディネーターの枠組みがあったからこそ実現し、患者が社会とつながる大きな契機となった。

【アレルギー疾患が学業に影響した事例】

食物を扱う実習を受けたい！ ～Hさんの場合（10歳代）～

管理栄養士の専門学校に通っているが、食物アレルギーのために学内 / 学外での調理実習への参加を認めてもらえない。

本人の希望

受講すべき調理実習に参加したい。

診療内容

検査により小麦依存性運動誘発アナフィラキシーと診断し、アナフィラキシー補助治療剤・エピペン®を処方した。

支援内容・結果

主治医と相談の上、実習時にアレルギーのある食べ物を調理で触る際に、手袋を装着するなどの防御をし、万が一に備え、エピペン®を所持することで問題ないことを伝えた。その旨を書類にして学校の理解を促したことで、調理実習に参加できることとなった。

- ・ 小麦による食物依存性運動誘発アナフィラキシーFDEIAのため過去に3回アナフィラキシーによる救急搬送歴あり。当科で診断し、その後、運動などを避け、自宅では小麦製品は摂取できていた。
- ・ 管理栄養士になるべく大学入学。小麦による食物依存運動誘発アナフィラキシーのため小麦を使用する実習を一切受けられないこととなった。

【両立支援内容】

- ◆ コーディネーターの介入により、他大学の管理栄養士や大学関連部署と連携し、具体的な助言と体制整備が可能となった。小麦を扱う実習では、ゴム手袋の準備やエピペン®携行などの対策により安全に参加でき、学外実習にも意欲的に取り組めるようになった。
- ◆ この症例は、両立支援の仕組みがあったからこそ救われた事例であり、制度がなければ教育や就労の機会を失う危険が高い。両立支援は患者個人の努力に委ねるべきものではなく、社会が制度として保障すべき不可欠の仕組みであると感じる事例であった。

【アレルギー疾患が学業に影響した事例】

学校に行きたいけれど… ～Kさんの場合（10歳代）～

アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の重い症状が続いており、倦怠感、頭痛、腹痛、寒気なども伴うようになっていた。夜眠れず夜更かししてしまい、朝起きられないという悪循環が続き、学校は欠席や早退が多くなっている。

本人の希望

学校にちゃんと通いたい。

診療内容

アトピー性皮膚炎は治療とともにしっかりとしたセルフケア指導を行い、アレルギー性鼻炎も適切な投薬治療で症状をコントロールできるようになった。アレルギー疾患とは別に、起立性調節障害があることが分かった。

支援内容・結果

学校担任、養護教諭、担当医師を交え面談を実施し、学校での生活態度を確認するとともに、体調不良の原因としてアレルギー疾患だけでなく起立性調節障害もあることを共有。学校関係者の理解を得て、保健室登校などが許可され、早退・欠席の減少、通学状況の改善が見られた。



【両立支援内容】

- ◆ 学校担任・養護教諭・担当医師を交えた面談により、体調不良の背景にアレルギー疾患だけでなく起立性調節障害も関与していることを共有し、生活習慣の改善を徹底した。その結果、昼夜逆転が改善し、早退や欠席が減少、進学に向けた学習にも取り組めるようになった。
- ◆ 医師だけでは解決できない就学・就労の課題に対し、両立支援コーディネーターは学校・家庭・医療をつなぎ、不可欠な役割を果たした。
- ◆ 両立支援コーディネーターの全国的な整備は急務であり、その欠如は教育・就労の機会喪失という社会的損失につながる。両立支援の制度化は、社会が担うべき責務である。

【皮膚科専門医の視点から】

アトピー性皮膚炎(+食物アレルギー等々)、アレルギー疾患があることにより、就学や就労がうまくいかない患者さんは少なくない。

・(中学生女子)小学校5年湿疹が悪化しはじめ、中学になり、湿疹もひどくなり、学校に通学しにくくなった後、勉強が追い付かなくなり、さらに学校にいけなくなった。

(アトピー性皮膚炎はやはり心身医学的な疾患)

→皮疹が重症ではなくても、このような患者さんは多いです。

➡アレルギー児の不登校は親の離職に繋がることがあります。

・(20歳代男子大学中退)もともとアトピー性皮膚炎は中等症、白内障手術は受けている。大学は入学できたが生活リズムが乱れ皮疹も悪化し大学中退。全身治療による治療を行い、皮疹は落ち着いたが就職がなかなか見つからない。

→就業意欲はあるが就業先が見つからない(非正規雇用)

・(20歳代男性)アトピー性皮膚炎中等症～重症。高校卒業後は自宅で過ごしている。全身治療により皮疹は落ち着いたが、昼夜逆転の生活は変えられず。

親も積極的に就業を勧めていない。

→親と子で就業はあきらめている。

＝相談できる部署が身近にあることが、患者と家族を救う＝

◆ これらの事例は、皮疹の重症度よりも不登校や中退、就労機会の喪失など生活や社会参加に深刻な困難をきたしている実態を示している。

◆ 小児期から青年期に切れ目のない支援と環境整備を行うことは不可欠であり、その中心となる両立支援コーディネーターの全国的整備は、教育と就労の機会を守る社会的責務である。

アレルギー疾患の治療と就労の両立に関する勉強会

誰もが社会を支える大切な一員であり、
一人ひとりが将来に希望を持って働き続けられる社会を目指して！

本学の産学連携推進センターと連携し、アレルギーが就労に及ぼす影響や、就労の際にその企業で発生し得るアレルギーについてのアドバイスなどを、企業向けに講演しました。アレルギーは、がんや脳梗塞などのように死に直結する疾患ではありませんが、直結しないからこそ周りの人には伝えづらい疾患です。

この講演を通してアレルギーの症状、対応法などを共有し、理解を深めてもらうことで、アレルギー症状による離職を防ぎ、人材確保につなげたいと考えました。

【講師】

- 矢上 晶子 藤田医科大学 総合アレルギーセンター センター長
藤田医科大学ばんだね病院 総合アレルギー科 教授/アレルギー専門医・指導医
- 森 雄司 藤田医科大学ばんだね病院 小児科 講師/
アレルギー専門医/両立支援コーディネーター
- 安藤あすか 藤田医科大学ばんだね病院 医療福祉相談室/
医療ソーシャルワーカー/両立支援コーディネーター

【講演先一覧】

- ホーユー株式会社
- 株式会社アイシン
- 日本特殊陶業株式会社
- 株式会社池田模範堂
- スギホールディングス株式会社



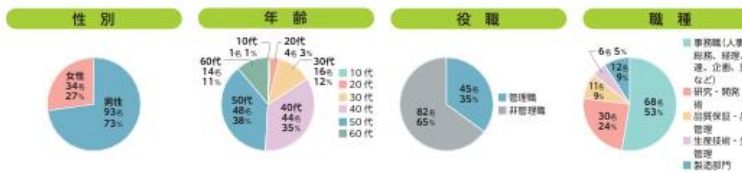
3. 日本特殊陶業株式会社

本社所在地：愛知県名古屋市
業種：スパークプラグおよび内燃機関関連製品の製造、
ニューセラミックおよびその応用商品の製造、販売、その他
従業員数：単独：3,622名（2024年3月付）
連結：15,980名（2024年3月付）

講演日：2024年10月24日
講演会場：Web開催（最大同時聴講者数：131名）



一般的なアレルギー疾患や両立支援について講演するとともに、WEB上で講演中に質問を受け付け回答。
WEB開催し最大同時聴講者数131名（アンケート回答者127名、うち管理職45名）。

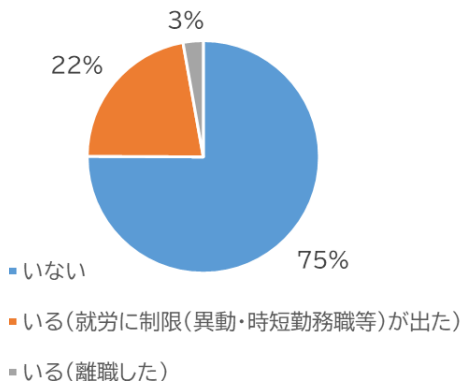


【アンケートより参加者の感想】

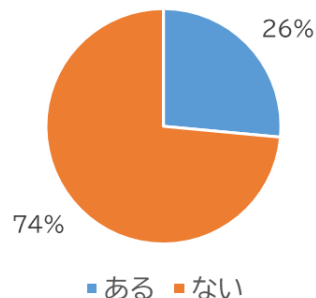
実現に向けた課題

- アレルギー疾患は長期的な影響を与えるため、継続的な医療・就労支援が必要
- 医師側での知識のばらつきがあり、最新治療の周知と教育の必要性
- 医療機関と企業間の情報共有が困難であり、両立支援を実施する体制整備が必要

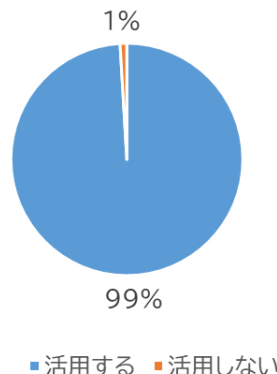
Q1（ご自身もしくは周りの方で）
アレルギー疾患が就労に大きく影響
した方はいますか？
（回答数：321）



Q2 社内でアレルギー疾患に
関わる相談をしたり受けたり
したことはありますか？
（回答数：321）



Q6 ご自身や周りではアレルギー疾患の
治療と就学・就労で困っている人が
いたら、両立支援を活用したいと
思いますか？
（回答数：318）



離職、異動や時短勤務等
大きく就労に影響した人
が4分の1

社内で相談経験がある人
が4分の1

両立支援を活用したい
という回答が99%



められる
度な症状にも配慮が必要
充実。社会全体に向けたアレルギー疾患の認知度向上を目
治療を受けることで両立可能であることが説明事例から分

企業での勉強会の実施

【勉強会開催後 参加者アンケート結果 一部抜粋】

- ◆ 担当や管理職だけでなく経営層の理解も必要、ひいては社会の理解が必要と思います。
自分自身や身の回りのアレルギーで苦労している人がいないと実感が持てないかもしれませんが、地道な啓発活動があると少しずつ理解が広まるのかと思っています。
- ◆ 就労が出来ないほどではないものの、アレルギー疾患のため睡眠不足となったり、集中力が途切れるぐらいの軽い症状の方もいると思います。そういった方の職場でのケアもできると良いと思いました。
- ◆ 会社の受け入れ態勢を整えていただくことが重要と考えます。
- ◆ 人材面で比較的余裕のある大企業より、中小企業の理解が両立支援の実用化の鍵になると考えます。厚生労働省の関係する事業ですので、両立支援コーディネーターを有する企業に対する国の助成があると両立支援そのものの認知、普及が進むと思います。
- ◆ アレルギー疾患は年を重ねても、カタチを変えて影響を与えるため、長期的なサポートが必要であることを理解しました。そのためには、ハラスメント、介護などと同様に、就労継続できるような世の中の理解が必要であり、そのための施策が国？からの強いメッセージが必要であると感じました。アレルギー疾患は身近であるため、まだ、我慢するべきとの認識が強いのではと思いました。

令和6年度免疫アレルギー疾患患者に係る
治療と仕事の両立支援モデル事業

アレルギー疾患の 治療と就学・就労の 両立支援実施の手引き



藤田医科大学 総合アレルギーセンター
(藤田医科大学ばんだね病院内)
愛知県アレルギー疾患医療拠点病院

総括 監修医からのメッセージ



我が国では全人口の約2人に1人が何らかのアレルギー疾患を抱えており、その症状は多様化しています。これにより、患者本人の学業や就業が困難になるだけでなく、付き添い者の就業にも大きな影響を与えていることが明らかになっています。そして、治療と学業・就業の両立が十分に実現されているとは言い難いのが現状です。

当院の調査結果では、アレルギー疾患が患者本人および付き添い者の学業・就業に影響した割合は約6割にのぼり、さらに約2割が離職・休職や休学を経験していることが分かりました。また、患者本人や付き添い者の約4割が学校や職場でアレルギー疾患について相談できず、通院の制限が症状の悪化を招くケースも少なくありません。さらに、約7割が「産業医や保健師といった相談相手の不在」や、「その存在を把握していない」と回答しており、サポート体制の整備が急務であることを実感しました。

本モデル事業の実施を通じて、「治療と就学・就労の両立支援」が有用であることを確認した一方で、両立が困難なケースも少なくありませんでした。特に、幼少期に発症したアレルギー疾患が長期化し、その影響で心身の負担が大きくなり、就学や就労が難しくなっている方が多く見受けられました。また、従来は幼少期に発症することが多かったアレルギー疾患ですが、成人期に新たに発症するケースも増加しており、さまざまな要因によって日常生活に大きな影響を受ける方が増えているのが現状です。そのため、「アレルギー疾患患者に係る治療と就労の両立支援」は一時的な取り組みではなく、継続的に維持・発展させるべき重要な課題と考えます。今後も学校や職場での理解促進や支援制度の周知、そして適切な相談体制の整備が不可欠であり、継続的な実態把握と改善を促せるシステムの構築が求められます。

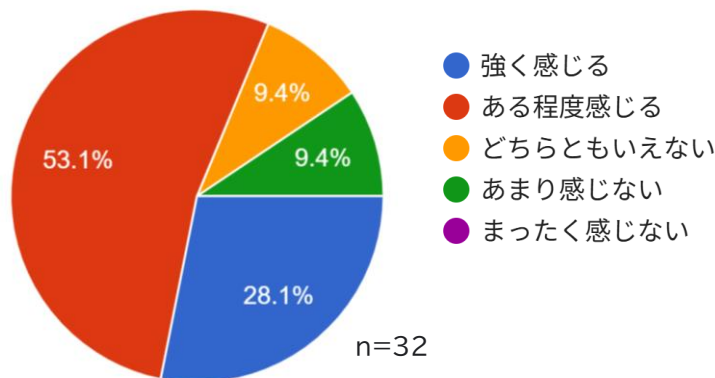
アレルギー疾患に悩む方は年々増加傾向にあります。すべてのアレルギー疾患患者が適切な治療を受けながら、安心して学業や仕事を続けられる社会の実現に向け、支援体制の充実に取り組んでまいります。

2025年3月
藤田医科大学総合アレルギーセンター
センター長 矢上 晶子

「アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援実施の手引き」についてのアンケート

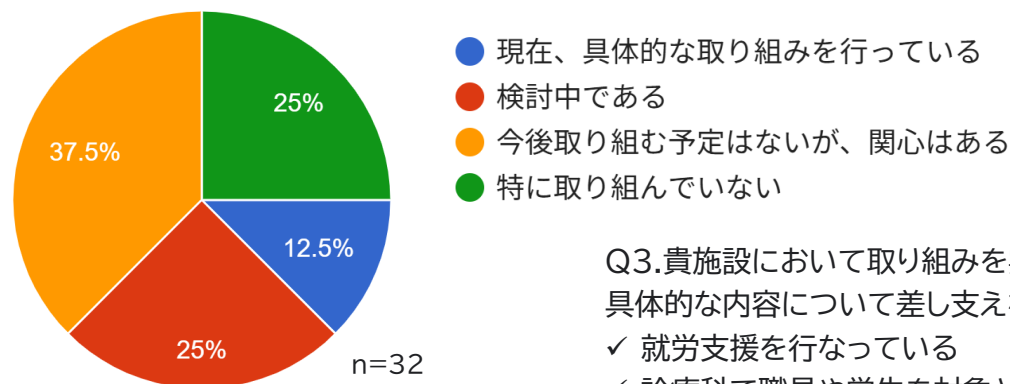
当センターがモデル事業の一環として作成した手引きを、全国のアレルギー疾患医療拠点病院（当院含まず77か所）、勉強会開催企業、愛知県連絡協議会関係者等にお送りし（合計99か所）、アンケート調査を行いました。【回答32件】

Q1. 貴施設において、アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援の必要性を感じたことはありますか？



8割以上の施設において、アレルギー疾患における両立支援の必要性を感じている

Q2. 貴施設において、アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援に関する取り組みを行っていますか？

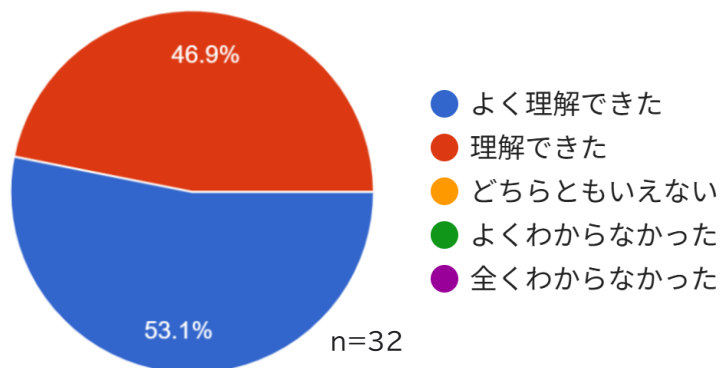


Q3. 貴施設において取り組みを実施されている場合、具体的な内容について差し支えない範囲でご記入ください。（5件の回答）

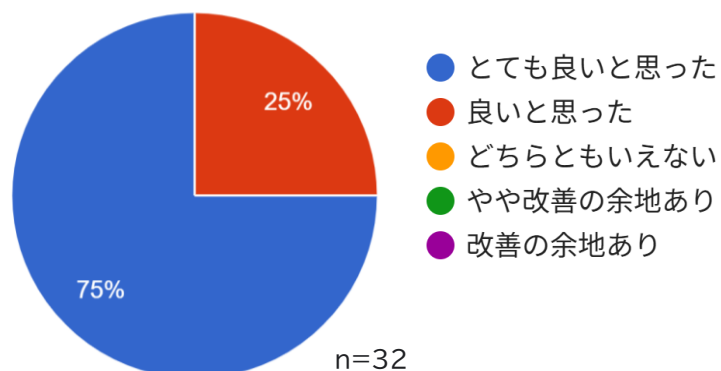
- ✓ 就労支援を行なっている
- ✓ 診療科で職員や学生を対象として相談、診察、治療している。
- ✓ 検査結果を詳しく説明し、アレルギーの病態を詳しく説明し、コントロールに重要なことの理解を深めた。職場に状態を話していただき(場合によってはこちらで説明も可能)、現状を理解いただき、その上で業務など考えていただき、仕事を継続できている。
- ✓ 青森県内の看護職を対象にアレルギーに関する研修を実施している。
- ✓ 治療と仕事の両立支援アプリの開発



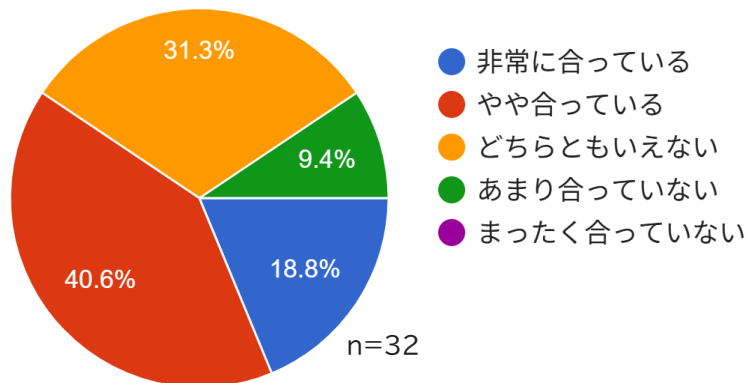
Q4.本手引きの内容から、アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援の必要性を十分に理解できましたか？



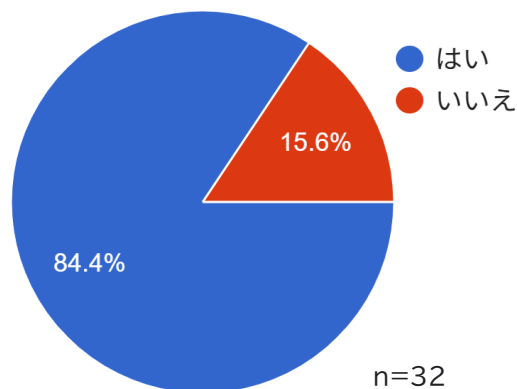
Q5.当センターにおける両立支援の仕組みについてどう思いましたか？



Q6.本手引きの内容は、貴施設の実情に即していると感じましたか？



Q6.本手引きを参考にして、貴施設での運用に取り入れたいと感じましたか？



【「いいえ」の場合、その理由を教えてください。】

- 人員の不足があり実現のハードルが高い。
- 恒常的な予算措置がなければ継続可能性がないため、モデル事業のような一時的な予算の範囲ではシステムを作成できたとしても維持が出来ないという点があります。一旦そのようなサービスが始まれば継続する必要がありますが、継続できる見込みがないと思います。特に当院は成人科でアレルギーに精通している人がかなり少ないためにそもそも実現可能性も低く、この手引きにある理想形を目指すのは困難だと考えています。
- 研修時や病院、施設訪問時に手引きを配付するなどの運用は可能だと考えます。
- まだ両立支援が具体化していないためです。もし今後運用する計画があればぜひ取り入れたいです。

Q7.本手引きについてのご意見、実際に運用する際のハードルや課題、他施設と共有したい貴施設の工夫や取り組みがあればご記入ください。

- 医師も国民もみんながこの取り組みを知るべきと考えます。アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援の手引きを愛知県医師会会員にも是非周知していきたいと考えます。
- とても素晴らしい冊子をご共有いただきありがとうございます。具体的な事例が掲載されていることにより、企業側だけでなく、企業に勤めながらもアレルギーに悩む一個人の方に対しても「こういった悩みを抱えているのは自分だけではない」「こういった相談や解決策があるんだ」と認知が広まれば、よりこの両立支援策は進んでいくのではないかと感じました。
- 他科連携・多職種連携の重要性を実感いたしました。当院にはアレルギー専門医やアレルギー診療に造詣のある多職種が少ないことが本取り組みを進める上で大きな課題であると感じています。
- 人手不足が1番のハードルです
- 直接手引きに関する意見ではありませんが、就学においては当事者以外の理解がある程度進んでいるものの、就労においては、まだまだ理解されない面が強いと感じています。周囲からの理解が円滑な治療につながるので、啓発については引き続き力をいれるべき課題と考えます。
- **多職種連携システムの構築やマンパワーの確保が課題になる。**
- 事業の取組み内容が詳細でとてもよく理解できました。
- 両立支援に係る問題点の可視化
- 今後も貴施設での運用実績を反映してバージョンアップしたものを参考にしたいです。私どもはまだ対象患者が圧倒的に少ないこともあり、まだ具体的に動いていないため工夫や取り組みは記載できません。
- 当院はアレルギー拠点病院ですが、まだアレルギーセンターがなく、まとまったアレルギー診療ができていないのが現状です。よって、一人でも代表として取りまとめ、関係診療科との連携が取れば、このような支援の実態や実際の支援などが病院全体として可能ではないかと考えます。
- 素晴らしい取組だと思います。

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

1. 昨年度作成の手引きを活用し、県全域での周知を推進
2. 他の「支援センター」との連携体制を構築、適切な支援を確保
3. “愛知モデル”として全国発信できる両立支援体制へ発展



● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

関節リウマチの治療と就労の両立をサポートします

関節リウマチなどの免疫疾患を抱えながら、働き続けると不安を感じていませんか？
働き続けたいのに必要な業務がこなせない、休む時間もなかなか取れない、
藤田医科大学はそんなお悩みでは、2023年7月より免疫アレルギー疾患の診療・就労と仕事の両立支援に本格的に取り組んでいます。その経験をもとに、一人ひとりの症状や生活環境に合わせた支援を行っています。両立支援コーディネーターが診療チームと連携し、治療と働き続けるのバランスを一緒に考えます。職場との調整や相談の活用についてもサポートします。どんなお悩みに応じますか。

お仕事と治療の両立、ひとりで悩まずご相談ください！
ご希望の方は、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

◆お電話からは 受付時間（平日9時～17時）
ばんだね病院の代表番号 052-321-8171
（両立支援の相談を希望）とお伝えください。

◆インターネットからは 24時間受付
専用フォーム（お申し込みのみに必要）
お申し込み後、2～3日以内に連絡いたします。

ばんだね病院を受診したことがなくても申し込みいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒454-8509 愛知県名古屋市千代田区東三丁15番10号 藤田医科大学ばんだね病院内 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

関節リウマチ
患者用チラシ

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー治療と就労の両立をサポートします

アレルギー疾患を抱えながら、働き続けると不安を感じていませんか？
働き続けたいのに必要な業務がこなせない、休む時間もなかなか取れない、
藤田医科大学はそんなお悩みでは、2023年7月より免疫アレルギー疾患の診療・就労と仕事の両立支援に本格的に取り組んでいます。その経験をもとに、一人ひとりの症状や生活環境に合わせた支援を行っています。両立支援コーディネーターが診療チームと連携し、治療と働き続けるのバランスを一緒に考えます。職場との調整や相談の活用についてもサポートします。どんなお悩みに応じますか。

お仕事と治療の両立、ひとりで悩まずご相談ください！
ご希望の方は、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

◆お電話からは 受付時間（平日9時～17時）
ばんだね病院の代表番号 052-321-8171
（両立支援の相談を希望）とお伝えください。

◆インターネットからは 24時間受付
専用フォーム（お申し込みのみに必要）
お申し込み後、2～3日以内に連絡いたします。

ばんだね病院を受診したことがなくても申し込みいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒454-8509 愛知県名古屋市千代田区東三丁15番10号 藤田医科大学ばんだね病院内 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

アレルギー疾患
医療機関用チラシ

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー治療と学業・仕事の両立を支援

藤田医科大学総合アレルギーセンター（ばんだね病院）では、アレルギーの症状や生活環境に合わせた支援を行っています。両立支援コーディネーターが診療チームと連携し、治療と働き続けるのバランスを一緒に考えます。職場との調整や相談の活用についてもサポートします。どんなお悩みに応じますか。

お仕事と治療の両立、ひとりで悩まずご相談ください！
ご希望の方は、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

◆お電話からは 受付時間（平日9時～17時）
ばんだね病院の代表番号 052-321-8171
（両立支援の相談を希望）とお伝えください。

◆インターネットからは 24時間受付
専用フォーム（お申し込みのみに必要）
お申し込み後、2～3日以内に連絡いたします。

ばんだね病院を受診したことがなくても申し込みいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒454-8509 愛知県名古屋市千代田区東三丁15番10号 藤田医科大学ばんだね病院内 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

アレルギー疾患
患者用チラシ

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー治療と学業・仕事の両立を支援

藤田医科大学総合アレルギーセンター（ばんだね病院）では、アレルギーの症状や生活環境に合わせた支援を行っています。両立支援コーディネーターが診療チームと連携し、治療と働き続けるのバランスを一緒に考えます。職場との調整や相談の活用についてもサポートします。どんなお悩みに応じますか。

お仕事と治療の両立、ひとりで悩まずご相談ください！
ご希望の方は、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

◆お電話からは 受付時間（平日9時～17時）
ばんだね病院の代表番号 052-321-8171
（両立支援の相談を希望）とお伝えください。

◆インターネットからは 24時間受付
専用フォーム（お申し込みのみに必要）
お申し込み後、2～3日以内に連絡いたします。

ばんだね病院を受診したことがなくても申し込みいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒454-8509 愛知県名古屋市千代田区東三丁15番10号 藤田医科大学ばんだね病院内 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

アレルギー疾患
医療機関用チラシ

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業
＝関節リウマチ患者さんへの就学・就労の両立支援体制の構築＝



藤田医科大学総合アレルギーセンター両立支援体制

アレルギー疾患患者に加え、
関節リウマチ患者への支援体制を構築中

アレルギー疾患患者

総合アレルギーセンター

診察

総合アレルギー科
呼吸器内科
小児科
皮膚科
眼科
耳鼻咽喉科
消化器内科

面談

両立支援プラン作成

第1・3水曜日
カンファレンス

両立支援コーディネーター
医療ソーシャルワーカー(MSW)

情報共有・支援内容検討・フォローアップ

多職種運営委員会
第3木曜日開催

看護部・薬剤部・検査部・事務部・施設課・食養部

両立支援コーディネーター数：
医師3名、研究員1名、事務員1名が
両立支援コーディネーター基礎研修を修了
今年度、医師3名、看護師1名、臨床心理士1名が
研修受講の予定

現在、両立支援の周知活動と同時に、当院のみならず愛知県全体で、免疫(リウマチ)・アレルギー疾患患者が、就学や就労の両立支援を必要または希望する場合に、安心して相談・支援を受けられる体制づくりに取り組んでいます。

①周知活動の強化
地元ラジオ局での啓発活動も実施予定



- ◆ 当センターのウェブサイトに掲載。
- ◆ SNSで情報発信
- ◆ 広く活用されるよう周知

②支援体制の強化
がん等の両立支援事業者と、
免疫アレルギー分野における協定を締結し、
支援体制の強化と拡充を図る



愛知県では初めての取り組み

発表の機会を与えてくださりまして
ありがとうございました。

